

源、鉱産資源の開発、広大な原野を背景とする番産の振興、阿蘇・霧島を結ぶ観光面の開発など、大きな効果が期待されている。

この縦断道路とともに、別府―阿蘇―熊本―三角をむすぶ横断道路の整備も、事業費四億八千万円で進められ、現在一〇%の進捗率を示している。

山鹿―植木間一級国道整備 北九州と南九州を最短距離で結ぶ一級国道は、福岡―久米―熊本―八代―鹿兒島等の都市を連絡する重要道路で、文字どおり九州の大動脈。本県内では北は鹿北村から南は水俣市に至る間総事業費七億円を

雄大な二つの干拓

有明海締切大干拓

有明海は全国一と云われる程干満の差があり、又河川からの土砂の流出も莫大なもの。そのため干潟の発達が著しく、現在の沿岸耕地二〇万ヘクタール(約二〇万町歩)のうち八万六千ヘクタールは、幾百年かの間に自然陸地化と干拓とによってでき上つたものというから、干拓適地という事はおもそ想像がつくというもの。又、この地域の石炭埋蔵量は四〇億トン以上というバク大なもので、海底炭の開発にも干拓が大きな役割を果す事になるし、又、この沿岸一帯は台風の進路に当り、毎年風水害潮害に悩まされているので、干拓する事によってこれらの災害、特に潮害を排除する事もできるわけである。農産物の増産は云うまでもないこと。

計画をみると島原と天草又は宇土半島を堤防で結び、有明海を干上がせると

以て改修の計画である。昭和三〇年から山鹿―植木間の改修をやつてきたが、今年度から建設省の直轄事業として、国が五千万円の事業費で重点的に工事を行うことになった。

三太郎峠の改修 (左頁の写真) またこの国道を、南に下つて芦北郡に入ると峻しい三太郎峠が通行を阻む様にそばだつている。そこで県ではこの道路の重要性にかんがみ、その改修を三十一年度から興事業として行つていたが、三十二年

度から建設省の直轄事業に移され、今年度は五千五百万円の事業費が予定されているが、県としてはこの早期完成を建設省に強く要望中である。

三角線(宇土半島―島原半島の堂崎)堤防延長一―千最大水深五五米地区面積一三万ヘクタール

すでに全体調査計画(予算一四億円)を立て、三十二年度までに一、四百万円の経費を投じて調査を行つてきた。三十三年度には、二千万円の予算が確保されたが、これは要求額一億三千二百萬円の一五%にすぎないので、更に六千三百二十五万円の復活要求中である。

不知火海締切大干拓 いま一計画されている干拓に不知火海締切大干拓がある。不知火海も干満の差が大きく干拓には好適の海域。そこで、八代市から宇土郡三角町を七、六千の堤防で結び、九、〇六〇ヘクタールを干拓しようという計画。総事業費は概算一五〇億円を見込んでおり、三十二年

からこの調査計画を農林省の直轄調査として推進されるよう接衝を続けている。

資源開発に大きな役割 小国―隈府間鉄道建設計画

すでに昨年度から調査測量を始めているこの計画は、久大線から分れて小国駅まで延びる宮原線と、熊本電鉄隈府駅附近とを結ぶ国鉄の新路線であり、大正初年頃から地元で唱えられていた森隈線の構想の一環といえるもの。三十二年

から八カ年計画で、全長四三、七千総工費五三億六千万円。開通の暁は輸送の不便をかこつている沿線の林産資源、鉱産資源(金、銀、硫化鉄、モリブデン等)農産資源の開発に大きな役割を果すものとして期待されている。

本渡瀬戸開さく事業 いま一つ天草にとつての明るい事業に、本渡瀬戸の開さく事業がある。天草の上島と下島との瀬戸は極めて浅く、干潮時には全く底が露出し、満潮時に辛うじて小さい船が航行できるという程度である。これを開さくすれば本島の南部及び鹿兒島方面と、本県北部及び福岡、佐賀、長崎方面とを結ぶ最短航路ができるわけで、産業経済面に及ぼす効果はきわめて大きい。

そこで航路延長三、八〇〇米、総事業費一億九千二百万円を投じて開さくし、常時五〇〇トン級の船舶が航行できるようにしようというもの。この事業も、昨年度までに四一% (七千八百万円) が済み、今年度に三千万円が内定しているが、三十四年度以降残り八千四百萬円の事業を早急に完成しなければならぬ。この開さく事業に関連する瀬戸橋(一―二三米の開閉橋)も、すでに昨年度にかけかえを完了している。

変つたコンクール とかく何につけてもコンクールばかりの世の中に、これは変つた「道路工事のコンクール」が七月十日から八月九日までの多道路を守る月間多に行われる。これまで多道路愛護週間が多が七月十日から一週間、国土建設週間の行事として行われていたが、一週間位では趣旨が徹底しないと、一挙に二カ月に延長して多道路を守る月間多としたもの。

この月間の主催は建設省、運輸省、警察庁、道路公団、都道府県などが、行事のうちの庄巻と云われるのが「道路工事のコンクール」。

これは国の直轄事業と補助事業に分けて行われるが、国の直営が請負業に負けては大変と建設省は大はりきり。

公営住宅建設数きまる 今年度公営住宅の県、市町村別建設戸数がこの程決定した。これによると、県営住宅は昨年度より大巾に増えて一五二戸(昨年九五戸)、市町村営五九八戸(昨年六七六戸)ということになった。

事業費は県営が六千八百九十四万三千円、市町村営一億七千七百五十六万八千円、計二億四千六百五十一万五千円(うち国庫補助が一億四千四百四十一万五千円)となつていく。

重点は道路・港湾・漁港の整備

天草離島振興計画

離島の後進性をのぞくために、昭和二十八年に「離島振興法」が成立し、天草(戸馳を含む)全体が適用地として指定された。

県でも二十九年に「天草島振興計画」(二十八年度から三十七年度までの十カ年計画)を打出して、道路、港湾の整備をはじめとし、電気導入や簡易水道建設などをふくむ一般公共事業費総額四億三千六百万円を計画したが、すでに三十二年度までの前半五ヶ年間に三六・五%の一億四千三百万円を投入して、「離島天草」に大きな活力を与えた

だが、この当初の全体計画も、後半を迎えるにおよんで、計画の各所に不合理な点もあらわれてきたので、今

いよいよ実現する

「天草架橋」

天草と云えば、三十六年度着工という明るい見通しのついた「天草架橋計画」も忘れてはならない。

県では三十一年度までに技術調査、経済調査を完了し、架橋期成会と一体となつて道路公団と建設省に対して早期着工を要望してきたが、一方道路公団でも三十一年度から基本調査を始め、その調査費も三十一年度の三〇万円、三十二年

度一―三万円、今年度は三〇〇万円という様に増加されている。最近公団総裁や建設大臣も相次いで現地調査に訪れ、三十六年度から着工する

おわびと訂正

去る五月、「広報くまもと」一一五号としてお送りしました行幸啓記念写真集「肥後路の天皇、皇后さま」の写真説明のうち、次のように一部分誤つておりますので、謹んでおわびと訂正をいたします。

特に畜産関係の皆様方には多大の御迷惑をおかけした事を、重ねておわびいたす次第です。

写真集十一頁左下の中の写真説明(誤) お手植地ではジャージー乳牛もご覧にいました。(十四日)
(正) お手植地では特産の赤牛もご覧にいました。(十四日)



三太郎峠